

イウカさんの OLÁ, HIKONE!



(olá[オラ]=ポルトガル語で「こんにちは」)

最終回 さようなら、彦根

皆さん、こんにちは。

この彦根市で2年間、国際交流員として働いてきましたが、その生活も終わりが近づいてきました。今回は最後の“Olá! Hikone”です。



4月からは、またブラジルでの生活が始まります。日本では、本当にたくさんのいい思い出ができました。仕事の面でも、プライベートでも、すばらしい経験をして、人間として大きく成長できたように思います。この経験を生かして、ブラジルに帰った後も、日本との「かけはし」として活躍したいと願っています。彦根の皆さんには、心の底から感謝しています。

◆安定している日本

ブラジルで生まれ育った私が日本で生活していると、いろんな意味で、ブラジルと日本は正反対に見えます。日本人が得意なことはブラジル人には不得意で、逆にブラジル人にとって何でもないことが、日本人にはとても難しいことなのです。

例えば、日本人は議論することが苦手です。けれども私には、日本人があまり議論することなく、いろいろなことをみんなと協力してやっていけるのは、とてもすごいことのように思えます。たぶん、日本人はほかの人と話し合わなくても、意見や行動が予測できるのでしょう。

日本には長い歴史と伝統があるので、とても社会が安定していて、予想のつかないようなことはあまりありません。日本の社会に慣れると、毎日安心して、快適に過ごすことができます。けれども、そのような社会を作るため、一人

ひとりには責任と重圧がかかるので、日本で暮らすブラジル人には、息苦しいと感じる人もいます。

◆変化の激しいブラジル

逆に、ブラジルでは、予測できるようなことはほとんどありません。政治も経済も、激しく変化し続けています。大きな会社が倒産することも多いので、日本のように大きなニュースにはなりません。

友だちの間でも、相手の意見や行動が予測できることは珍しいので、相手のことを信頼しながら、何でも率直に話し合うことがとても大切です。ブラジル人は、友だちと待ち合わせの約束をした時間に、友だちが来なくても動揺したり、怒ったりすることはありません。人生には予測のつかないことが起こるのが当たり前で、何かが起こったら、その状況の中で楽しく過ごす方法を考えたいのです。

ほとんどのブラジル人はそういう柔軟さを持っているので、変化に対する対応は日本人よりも得意だと思います。だから、日本のように経済や社会が安定していなくても、それほど苦勞もせず、楽しく生活できます。逆に、ブラジルのような変化の激しい社会では、日本人はどう行動したらいいかわからないことが多いのではないのでしょうか。

私は、両方の社会で生活して、それぞれの社会の得意なことと不得意なことが、よく分かるようになりました。自分の住む社会とぜんぜん違う社会があると知ることは、世の中の見方を広げてくれます。そして、自分らしくあることや友情がどんなに重要か、実感することにつながると思うのです。私には、それが世界が平和であるために、大切なことに思えます。

彦根でたくさんの人と出会い、たくさんの友だちができて、彦根は忘れられない土地になりました。私と彦根の皆さんとのつながりは、これからもずっと続きます。だから、Adeus(さようなら)ではなく、このあいさつでお別れしましょう。

Ate' breve, Hikone! (じゃあまたね、彦根)

Muito obrigada! (どうもありがとう)

(彦根市国際交流員 上甲イウカ)

イウカさんの国際交流活動

すてきな思い出が、たくさんできました



▼あちらこちらに出かけて、多くの人たちに、ブラジルの文化を知ってもらいました。小学生の子どもたちにも、伝わったかな？



▲彦根市や近隣町で活躍するALT(語学指導助手)たちとも親しくなりました